

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：株式会社キャリア

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容	
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解			1 職務の理解	
			通学	通信	合計	
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3		3	(1) 講義のみ
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3		3	講義及び演習 各種サービスを通じて介護職がどのような仕事をしているのか・どのような役割をもって対応しているのか等をグループワークで話し合い、グループ毎で発表する
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援			2 介護における尊厳の保持・自立支援	
			通学	通信	合計	
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	1.5	3	4.5	(1) 講義及び通信講習
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	1.5	3	4.5	講義・演習及び通信講習 (2) 自立に向けた介護を事例を用いてグループワークで討論し、発表する。
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本			3 介護の基本	
			通学	通信	合計	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	0.5		0.5	(1) 講義のみ
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1		1	(2) 講義のみ
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	1.5	1.5	3	講義・演習及び通信講習 (3) 介護における安全の確保について技術練習を行い、グループワークでリスクマネジメントの必要性について話し合い、グループ毎に発表する
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1.5		1.5	講義及び演習 (4) 介護現場における安全管理・技術を実践練習し、介護職が遵守すべき安全についてグループで話し合い、発表する。

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間	
(1) 介護保険制度	
(2) 障害福祉制度及びその他制度	
(3) 医療との連携とリハビリテーション	
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間	
(1) 介護におけるコミュニケーション	
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	
6 老化の理解 6 時間	
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	
(2) 高齢者と健康	
7 認知症の理解 6 時間	
(1) 認知症を取り巻く状況	
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	
(4) 家族への支援	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9 時間			
	通学	通信	合計
(1) 同左	1	2	3
(2) 同左	0.5	2.5	3
(3) 同左		3	3
5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間			
	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	1.5	3
(2) 同左	1.5	1.5	3
6 老化の理解 6 時間			
	通学	通信	合計
(1) 同左	1.5	1.5	3
(2) 同左	1.5	1.5	3
7 認知症の理解 6 時間			
	通学	通信	合計
(1) 同左	0.5	1	1.5
(2) 同左	1	1	2
(3) 同左	1	1	2
(4) 同左	0.5		0.5

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義・演習及び通信講習 介護保険制度について介護事例を用いてグループワークで話し合い、発表する。	
(2) 講義及び通信講習	
(3) 通信講習のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義・演習及び通信講習 利用者・介護者に分かれて円滑なコミュニケーション方法をロールプレイを通じて学ぶ	
(2) 講義・演習及び通信講習 円滑なチームコミュニケーションと報連相の必要性や意義をグループ討論を通して理解を深める。	
6 老化の理解	
(1) 講義・演習及び通信講習 バイタルサインを理解・技術練習を行い、グループに分け、ケーススタディを用いて日常生活における課題や必要な支援について話し合い発表する	
(2) 講義及び通信講習	
7 認知症の理解	
(1) 講義及び通信講習	
(2) 講義及び通信講習	
(3) 講義・演習及び通信講習 認知症の症状を知り尊厳を守る視点の理解を促した上で、事例などを用いてロールプレイングを行い、どのようなケアが必要なのかをグループで討論、発表する。	
(4) 講義のみ	

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 こととからだのしくみと生活支援技術 75 時間		
ア 基本知識の学習		10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50～55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(10) 排泄に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(11) 睡眠に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護		
(12) 死にゆく人に関したこととからだのしくみと終末期介護		
(実習)* (50～55時間中12時間以内)		
介護実習		○時間
ホームヘルプサービス同行訪問		○時間

8 障害の理解		3 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		0.5	0.5	1
(2) 同左		0.5	0.5	1
(3) 同左		0.5	0.5	1
9 こととからだのしくみと生活支援技術 75 時間				
ア 基本知識の学習		10 時間		
		通学	通信	合計
(1) 同左		0.5	1.5	2
(2) 同左		2	2	4
(3) 同左		2	2	4
イ 生活支援技術の講義・演習		53 時間		
		通学	通信	合計
(4) 同左		3	1	4
(5) 同左		6		6
(6) 同左		6		6
(7) 同左		9		9
(8) 同左		3	1	4
(9) 同左		9		9
(10) 同左		6		6
(11) 同左		6		6
(12) 同左		3		3
(実習)*		0 時間		

8 障害の理解	
(1) 講義及び通信講習	
(2) 講義・演習及び通信講習 グループに分かれ、ケーススタディを用いてケースを分析し 障害について話し合い、想定されるケアを発表する。	
(3) 講義及び通信講習	
9 こととからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義及び通信講習	
(2) 講義及び通信講習	
(3) 講義及び通信講習	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義のみ	
(5) 講義及び実技演習 住まいにおける安心・快適な室内環境とは何かを学び、例題をもとにどういった環境確保が望ましいのかを討議する。	
(6) 講義及び実技演習 利用者役・介助者役に分かれて、更衣や整容の各項目の基本的技術を学び実践し、利用者の事例を用いて状況に応じた応用技術を学ぶ。	
(7) 講義及び実技演習 ボディメカニクスを理解し、利用者役・介助者役に分かれ体位変換や車椅子・便座への移乗・移動の補助などの技術を身につける。	
(8) 講義・実技演習及び通信講習 食事に関する基礎知識・技術を学び、利用者役・介助者役に分かれての食事前の準備から食事介助の技術を実践する。	
(9) 講義及び実技演習 入浴・清潔に関する基礎知識・技術を学び、利用者役・介助者役に分かれて入浴・全身清拭・足浴などを実践する。	
(10) 講義及び実技演習 排泄に関する基礎知識・技術を学び、利用者役・介助者役に分かれ、様々な排泄介助を実践する。	
(11) 講義及び実技演習 睡眠に関する基礎知識・技術を学び、心地よい睡眠のためにシーツのたたみ方・敷き方を含めたベッドメイキングの実技演習を行う。安楽な姿勢の取り方や褥瘡予防方法について実践する。	
(12) 講義及び演習 ターミナルケア・看取り介護に関する基礎知識を学び、生から死への過程、死に向き合うことへの理解、苦痛の少ない死への支援をグループワークにて事例を用いて自身の死生観を振り返りながら、ケア方法を討議し、終末期のとらえ方や心理状況などの理解を深める。	
(実習)*	

在宅サービス提供現場見学	○時間					
ウ 生活支援技術演習	10~12時間	ウ 生活支援技術演習	12	時間	ウ 生活支援技術演習	
(13) 介護過程の基礎的理解		(13) 同左	3	1.5	4.5	(13) 講義・演習及び通信講習 事例を用いて介護過程の理解を促し、個別性のある介護計画の作成をグループワークにて行う。
(14) 総合生活支援技術演習		(14) 同左	6	1.5	7.5	(14) 講義・演習及び通信講習 小グループを形成し、グループでシナリオに基づいた食事、入浴、排泄、移動、清潔保持などの実技演習を行い、技術習得度を確認する。
10 振り返り	4 時間	10 振り返り	4	時間	10 振り返り	
(1) 振り返り		(1) 同左	3		3	(1) 講義及び演習 全体のまとめを通し利用者の状態に応じた介護・心理・社会面を総合的に理解する知識チームアプローチの重要性を再確認する。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2) 同左	1		1	(2) 講義のみ
追加カリキュラム	時間					
計	(130 時間)	計	(130 時間)			

※「9 ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、1 2 時間以内とする。